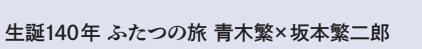
動画公開



青木と坂本の名画が里帰り



10月29日出から久留米市美術館で「生誕140年ふたつ の旅 青木繁×坂本繁二郎」が開催されます。日本の近代 洋画界に大きな足跡を残した2人の作品約250点を展 示。美術館のリオープンを飾るにふさわしい展覧会です。

郎が集めた作品のうち、 術館の運営が久留米市に移行し 洋画の多くは、長い間、石橋美術 各地を放浪。中央画壇への復帰も が散逸することを心配し、 てデビューを果たします。 木に触発されて上京し、数年遅れ かなわず、 青木の没後、 平成28年、

館(現在の久留米市美術館)で展 二郎(のちのブリヂストン創業者) くなりました。一方の坂本は、青 作品の収集を勧めます。正二 わずか28歳の若さで亡 坂本は青木の作品 日本近代 石橋正

ビューとは対照的に、晩年は九州 して評価されますが、華々しいデ 在学中に画壇に登場します。 は東京美術学校(現東京藝術大) 同じ高等小学校と洋画塾 画家を志しました。青木

入口棟整備のため、

ヨーロッパでの日本近

代洋画への関心を高めました。 館者42万人を魅了しました。自然 海を渡り海外で紹介されたのはこ の中で生きる人間の生命力を描い の幸」は最初の部屋に登場し、 ヌなどの西洋の名画の中で、「海

66年ぶり待望の二人展

約10カ月間 美術館搬出

> 第1弾は、 10月29日出に

にぎわうオランジュリー美術館石橋財団コレクション展に訪れる人で

以来、66年ぶり。

それぞれの初期から晩年までの

昭和31年に石橋美術館で開かれた を展示します。それぞれの回顧展 ながらも、作風も性格も全く異な からお互いを意識し、切磋琢磨しを記念した展覧会です。幼少期 「青木繁・坂本繁二郎作品展覧会」 ますが、同時に開催する二人展は、 は、これまで何度も開催されてい る二人の代表作を含む約250点 木繁と坂本繁二郎の生誕140年

美術館搬出入口等工事が完成

昨年12月から10カ月の休館を経て、 大型エレベーターを備えたトラックヤード が完成しました。重要文化財や大型作品 も天候に左右されることなく、安全に搬 出入することができ、さらなる展覧会の充 実に。大規模な工事は、美術館を支援す る公益財団法人石橋財団による寄付事業 として施工されました。文化センター庭 園内のライトアップ設備も充実します。



坂本繁二郎《放牧三馬》1932年 石橋財団アーティゾン美術館蔵

関連イベント

5 2022.10 広報 久留米

前に申し込みが必要です 催も予定しています

美術の世界 11月26日出14時 ~15時30分。開場は13時30分 から ■講師森村泰昌さん ■石橋 文化会館小ホール 料金無料。事 その他、講座やワークショップの開

月29日休から1月1日祝)は休 65歳以上700円、大学生50 紙作品を中心に展示の一部を入れ は16時30分まで。12月13日伙から 600円。チケットぴあ、ロー 高校生以下無料。前売り券 1月2日休、9日祝は開館し ◆入館料一般1000円、 ■講座ふたりの「繁」が作り出した 月曜日、 MX 0 9 4 2 3 9 年末年始(12

の中で、

独自の作風を探求した青

ながら「ふたつの旅」をひもとい 木と坂本。二人の生涯を交差させ 洋画が成熟へと向かう時代の流れ

た作品の同時展示も実現。日本の

が、唯一同じ題材「能面」を描い

に分けて紹介

ち―坂本繁二郎」、「交差する旅_

◆会期 10月29日出から来年1

フランスの人々をも魅了

ランジュリー美術館」で展示され

青木繁と坂本繁二郎。くしくも

明治15年に久留米市に生